

文部科学省 リスコミ検討作業部会 報告
2013年6月4日 文部科学省にて



LITERA JAPAN

「これからのリスクコミュニケーションのあり方」について考えること

リテラジャパン(株式会社リテラシー) 代表取締役

西澤 真理子(PhD, DIC)

本日お話ししたいこと

1. リスクコミュニケーション(リスコミ)
2. 「ハザード」コミュニケーションの問題
3. (市民)参加型のコミュニケーション

1. リスクコミュニケーション(リスコミ)

- リスクコミュニケーションはリスクアナリシスのひとつの要素(『リスク評価を読み解くハンドブック p6』)。
- リスク評価(科学的判断)とリスク管理(政策・経営判断)を伝える。
- リスクコミュニケーションは評価と管理を役立て社会をよりよくするためにある(『同p15』)。
- リスクコミュニケーションにはその先に相手がいる。

2. 「ハザード」コミュニケーションの問題

- リスクは危険ではない。
- 「ハザード」(危害因子、有害性)「リスク」(危険度、好ましくないことが起きる可能性)は別なものです。
- 「〇〇が危ない」というハザードの話が繰り返し替えられる(ハザードコミュニケーション)。
- リスクの大きさが伝わらない。リスクコミュニケーションにならない。

『リスク評価ハンドブック p3』

リスクの考え方



リスクの大きさは、主にハザードの強さと量の関係で決まるということなのです。

3. 参加型のリスクコミュニケーション

- Fairness（公平か）and competence（有効か）
 - プロセスの公正さ
 - 参加型の位置づけ
（主催者側と市民側のずれ）
 - 文化的、政治的、社会的要素との関係
（社会土壌）
- （西澤、2003年）

参考文献

- 西澤真理子 (2012) 『リスク評価を読み解くハンドブック』第二版 リテラジャパン発行
<http://literajapan.com/handbook/>
- 西澤真理子 (2003) 「社会土壌が参加型リスクマネジメントに与える影響:ドイツでの事例を基に」『社会技術研究論文集』1 (1), 133-140.
http://shakai-gijutsu.org/vol1/1_133.pdf

- Nishizawa, M. and Renn, O. (2006) 'Responding public demand for assurance of genetically modified crops: Case from Japan', *Journal of Risk Research*, 9(1), 41-56.
- Nishizawa, M. (2005) 'Citizen deliberation on science and technology and their social environments: case study on the Japanese consensus conference on GM crops', *Science and Public Policy*, 32 (6), December, 479-489.

Copyright © 2013 Litera Japan Co. All rights reserved. 無断転載、引用を禁ず。